

はっけん

2011年
四月発行
九手連

【福岡】

【聴覚障害者に関する災害対策シンポジウム】

日時：2月19日（土）

場所：筑紫野市障害学習センター

○シンポジウム

コーディネーター 酒井澄彦氏（ふくおか災害ネットワーク）

シンポジスト 中村良洋氏（福岡県総務部消防防災課）

因幡敏幸氏（春日・大野城・那珂川消防本部）

川原富美子氏（福岡県手話の会連合会）

馬場昭夫氏（福岡県聴覚障害者協会）

新燃岳の噴火が話題になっていますが、台風・水害・地震時には災害時要援護者となる可能性が高い聴覚障害者の防災対策のシンポジウムが2月19日、筑紫野市生涯学習センターで催された。午前は兵庫県立聴覚障害者情報センターの嘉田眞典所長から阪神淡路大震災と豊岡水害での聴覚障害者救援・支援の過程を映像で紹介され、防災を身近に感じた。午後はふくおか防災ネットワークの酒井澄彦氏のコーディネートで県消防防災課の中村良洋氏、春日・大野城・那珂川消防本部の因幡敏幸氏、県聴覚障害者協会の馬場昭男氏、県手話の会連合会の川原富美子氏の発表と参加者との質疑応答が行われた。

- ① 平常時から聴覚障害者自身が防災意識を持って生活する。
- ② 行政や隣近所への聴覚障害者の啓発、協力依頼をする。
- ③ 災害時の情報収集方法や避難経路の確認、SOSカードや非常袋の準備等の必要性を感じた。支援体制や協力しあえる地域作りが望まれる。

筑前手話の会 山本 秀尚



第40回 福岡県ろうあ者耳の日記念集会

平成23年3月6日(日) 於:北九州市ウェルとばた

去る3月6日、北九州市ウェルとばたにて、第40回福岡県ろうあ者耳の日記念集会が行われました。参加者数は約400名。

開場30分前から既に人が並んでいました。記念講演は財団法人全日本ろうあ連盟理事教育対策部長、内閣府障害者制度改革推進会議総合福祉部会構成員の西瀧憲彦氏の講演でした。「障害者制度改革推進会議について」をテーマにして障害者自立支援に向けた法整備に関する事、現在展開中の「we loveコミュニケーション」パンフ運動の現状と今後のこと話を頂きました。

内容的に少し難しいと思いましたが、情報・コミュニケーション保障の必要性・重要性を再認識するいい機会になりました。

アトラクションは奈良ろう者劇団「大仏も笑う会」による『ドクターアフロ』音楽とダンスにズレがなく、ろうの役者さんの動きと声優さんの声がぴったりなのにはびっくり!新喜劇さながらの面白さ&でもちょっとホロリとさせられるストーリーに引き込まれました。私は今回スタッフとして参加しましたが、スタッフメンバーには手話の会とろう協のほかにコミュニケーション講座の方もいて、仕事の合間に普段交流をしたりといい雰囲気で仕事を楽しむことができました♪

北九州手話の会 八幡東支部 今井 明美

【佐賀】

平成23年3月6日（日曜日）佐賀県手話の会連絡協議会主催の学習会を開きました。その時の写真と参加者の感想です。

①今回の内容は「ろう者に良く伝わる手話の表現方法」でした。

手話を学んでいる健聴者にとって手話が確実に伝わった時は、とても嬉しいです。学習会では、文章に基づいてどう表現したらより伝わるかという事を学びました。

学習内容を簡単にまとめてみました。

・文章通りに表現するのではなく、文章の意味をとらえ、要約して表現する。

- ・手話をする時の表情・視線・位置が大切である。
- ・手話表現は一つではなく、その時、その場に応じた表現を工夫する。
- ・ろうあ者に手話表現を教わる時は、自分なりに手話表現してから文章を見せて聞く。

等などたくさん学びました。

三田川手話の会



②入門・基礎の講座受講を終了して、習ったはずなのにすぐ忘れます。

難聴者の友達の「忘れたと？」とのつっこみに、「あ～あ」の繰り返しです。

久しぶりに参加した今回、やっぱり忘れてました。でも、教えてもらうと、

「ああ、そうだった。」と少し思い出すのは、まあ良い方かな？と自分には甘い。

話したい、伝えたい思いが手と表情で現される手話という言葉。

講師の方の優しい顔が、「間違っていないよ。この表現もあるよ。」と否定せずに受け止めて下さるのが、参加するたびに届きます。長い文章が簡潔な言葉に替えられる。標準語を方言にするように。

「良いですよ。」が「よか」に替わる感じです。学んだことを、友達に話したら伝わりました。より自

分の事を話して下さった。

もう1回、もう1回と何度も聞き返しながらも楽しく話せました。

次回の講習会を心待ちしています。

小城市手話サークル 北島一美

【長崎】

第42回 耳の日集会 in 長崎

2011年3月6日、平和会館ホールにおいて、上記集会が行われました。長崎の場合、ろう協支部が4つあり毎年持ち回りで開催されます。今年は長崎支部の担当でした。

オープニングセレモニーとして[ハートフルダンス](聴覚障害者と手話サークルの有志で構成されたダンスマチムです。)ロコモーション・ルパン三世のテーマ・すてきな16歳の3曲を披露されました。

開会式の後、特別講演は日本ろう者劇団俳優の井崎 哲也氏[歩んできた私]と題して話されました。東京教育大付属ろう学校を卒業後、七宝焼きの会社に就職。本当は画家になりたかったが、才能がないと諦めた?仕事の傍らパントマイムを学び、演劇サークルを設立。黒柳徹子氏と知り合い[日本ろう者劇団]改称。渡米し、プロろう者劇団員として公園ツアーに参加した中で、自分の中にも差別があるのに気付いたなど劇団活動が中心の内容でした。本の販売もあり、サイン会も行われました。

アトラクションは、手話劇「盲亜学校とろうあ者の歩み」自分たちで作・演出され、大正時代に日本一の学校があったこと、ヘレン・ケラーが戦前・戦後に来崎したこと初めてしりました。

参加者は350人程、雨の中久しぶりに会う人もあり、手話の花が咲いていました。



【熊本】

熊本県北地域での報告をします。

「耳の日」 = 「We Love コミュニケーション」パンフ普及と署名運動です。

○荒尾⇒1月29日(土)にボランティア新年交流会の時に、30分間ほどの

時間をいただき 「We Love コミュニケーション」 の活動を紹介。

また、3月6日「耳の日」事業として、中央公民館祭りで署名運動。

両日とも、一日中の活動になりましたが、県ろう協の県北支部の人達や荒尾わかぎ会員の頑張りで、あわせて450名ほどの署名を集めることができました。

○鹿本⇒3月21日(春分の日)、県北支部と鹿本わかぎでは、We Loveパンフ署名活動を行いました。

あんずの丘(山鹿市菊鹿町)で、「あんずの丘マラソン大会」が県内外から約2000名の参加を得て開催されたことから、テントを借り受け
雨交じりの中、署名活動を行いました。
おかげさまで、延べ370名の署名獲得に成功しました。
朝9時に集合し、12時まで活動しました。

熊本 通信員松下



【大分】

大分県からは、2つの情報があります。

「大分県手連、人権尊重社会づくり推進功労賞を受賞！」

大分県手連は、平成22年度大分県人権尊重社会づくり推進功労賞を頂きました。これは、人権が尊重される社会づくりに積極的に取り組む大分県内の個人、団体に贈られる賞で、22年度は1個人、2団体が受賞しました。その1団体に選ばれました。大分県手連としての受賞でしたが、これは、県内のサークル会員一人一人のこれまでの活動の結果であると思います。本当に嬉しいお知らせでした。

「第43回「耳の日記念」大分県ろうあ者福祉大会開催！」

3月6日(日)に第43回「耳の日記念」大分県ろうあ者福祉大会が、日田市で行われました。午前中は式典、午後のアトラクションは、人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみにも在籍されていた善岡修氏による講演からスタートしました。デフ・パペットシアター・ひとみでの旅公演での様々な経験、ハプニングについて、人形劇を通してコミュニケーションのヒントとなるものを感じたこと等を講演して頂きました。また、実際に劇で使用する人形を持ってこられており、ただの人形が、善岡さんが操ることで生きているように表情が出てくるのにとても驚きました。1時間弱の講演でしたが、おもしろ楽しく講演を聞くことができました。

その他のアトラクションとして、昭和学園高等学校バトン部による演技、九州代表として全国大会にも出場していることもあり、息のあったバトン裁きは迫力満点で、会場を飲み込むほどの勢いでした。また、前津江浦和太鼓による太鼓演奏は、和太鼓の振動が体中に伝わり体が熱くなる感じで大変楽しめ

ました。当日の天候はあいにくの雨で肌寒かったですが、県内の多くのろう者の知り合いと久しぶりに会える良い1日となりました。



【宮崎】

第39回宮崎県耳の日記念大会

平成23年3月6日 宮崎手話サークル 機関紙部部長 黒木淳子

耳の日大会が延岡市で開催されるということで、それに向かう私はJRを利用することにした。車で2時間の距離を長く感じたことはないのだが、この機を利用し旅行気分に浸ってみたく、白い靄に包まれた宮崎神宮境内を横切る小道を抜けて、駅に出た。

海岸線に沿って伸びる日豊本線には、波打ち際から線路までが100mも離れていない箇所が多々ある。防風林の向うに太平洋が広がり、漁船が数隻連なって網を引くその上ではトンビがおやつを待つように舞っている。手前には田園が広がり、それらの風景を繋ぐように畜舎が点在する。空のままの畜舎も多く、時が止まったままであることを感じる。牛達が戻ってきた畜舎の周りには、深雪のように広範囲に石灰が撒かれていた。

口蹄疫で甚大な被害を被った川南駅に着く。国道を運転して通過する時には気がつかなかったが、川南の駅は他の駅とは雰囲気が異なる。駅が花に包まれているのだ。町民の皆さんのが自発的に花を植えに寄り、管理されているという。川南の皆さんには川南が好きで、自分達の仕事と土地に誇りを持っていらっしゃることが駅舎から伝わってくる。

日向市に入ると、ボードにまたがり波を待つサーファー達の姿が目を楽しませてくれた。やがて景色は延岡市のシンボルでもある、大きな赤白の煙突へと変わっていった。

延岡駅を出て城山に向かって歩きだす。耳の日記念大会が開催される野口記念館は旭化成が創業30周年を記念して延岡市に寄贈した建物で、半世紀前には西日本一のホールだと称された美しい建物だ。

満席の会場には開会前から優しい空気が漂っていた。県内各地から集まつた仲間達が再会を喜び、互いの近況を報告しあう。それぞれの席が笑顔で満たされた時、開会の挨拶があった。

聴覚障害者が、手話や文字による情報・コミュニケーションのサポートを得やすくなりつつある背景には、半世紀に渡る長い運動によって、国民全体の人権に対する意識が変化してきたということもあるが、「日本全体が高齢化時代を向かえたために誰もが障害者になり得る時代になった」というお話しが、安藤理事長からあった。大会宣言の中でも、長引く不況とあいまっての高齢化社会の中では、福祉制度だけでなく、慈しみあい助け合いを基本とした人間愛の社会を実現することが大切だと、力強く表現されていた。

それを受けた大会決議（案）は以下の通りであり、満場一致で採決された。

（写真は大会決議採択の

社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会体育部長の堀田享志さん）

1. 県立聴覚障害者センターの地方分室設置を！
2. テレビ放送のローカルニュース等に字幕、手話の導入を！
3. 市町村における手話通訳・要約筆記者派遣事業の充実を！
4. 聴覚障害者の雇用と職場での情報・コミュニケーション環境の整備を！
5. 高齢ろう者に対する介護支援対策の充実を！
6. 障害者権利条約の批准とその理念に沿った総合福祉法の制定を！

全員が起立して大会決議が採決された。拍手の音が大きく会場内に響いた。

竹下由起子さん「蝶々マーク第1号ドライバーとして」

江藤美由紀さん 心のバリア「祖母ちゃんが教えてくれたこと」

堀内はなこさん「名古屋旅行に行って気付いた事」

続いての弁論大会では、3名の方が経験談を堂々と発表された。セーラー服姿が可愛らしい堀内さんの番になると、延岡ととろ聴覚支援学校の後輩達だと思える小学生達が客席に入って来てお行儀よく座り、堀内さんの発表を食い入るように見ていた。

この広い会場で大人達を前に堂々と発表する堀内さんの姿は、子ども達にはどのように見えただろう。一人旅をしたというその体験だけでも小学生にとっては憧れであるだろうが、それ以上に緊張したであろうこの発表を彼女は見事にやり遂げた。

昼食をはさんでの2部では、この日のために練習を重ねてこられた“やぶつばき一ず”

によるダンスと、オリジナル脚本による手話劇「水戸黄門」の舞台が繰り広げられた。

会場は外の冷え込みを忘れてしまうほどの熱気に包まれ、再会を約束し、閉会となつた。

大会運営に携わられた皆様に、心よりお礼を申し上げます。



【鹿児島】

鹿児島県手話サークル連絡協議会独自の取り組みとして、平成22年度は3回の『一日研修会』を開催しました。7月に第1回目「国語の勉強会」を実施し、漢字の読み書き、文章の要約、同義語・反対語、ことわざなどの勉強をしました。皆さん頭を悩ませながらも、楽しそうでした。日本語の難しさを改めて実感させられました。11月に第2回目「読み取り通訳」を実施し、鹿児島市聴覚障害者協会老人部の敬老会を撮影したビデオを視聴しながら読み取り通訳の練習をしました。おじいちゃんおばあちゃんの手話は、日ごろ見慣れてなかつたので四苦八苦しながら読み取りました。今後は老人部の行事にも積極的に参加しようと思いました。1月に第3回目「聞き取り通訳」を実施しました。鹿児島市聴覚障害者協会創立50周年記念式典の鹿児島市長の挨拶と県手連の出森会長の挨拶をテープに吹き込んだものを、聞き取り通訳しました。スピードについていけなかったり、単語を忘れて手が止まつたりする参加者が続出でした。3回の一日研修会の参加者数にはらつきはあったものの、意義深い研修ができたと思います。今後も定期的に研修会を開いていきたいと思います。

編集後記

3月11日東日本大震災に見舞われました。そして4月7日、またもや地震がありました。

皆さんは、今年の桜を、どんな気持ちで眺めていますか？

九州で満開の桜の花、ひらひらと花びらが舞っていました。

今年も無事にはっけん4月号を発行出来ました。ご協力に感謝致します。

九州手話サークル連絡協議会

事務局〒866-0892

熊本県八代市古閑下町1717-43 前渕洋一

TEL0956-35-2653

発行責任者 中本教博

広報担当者 齊藤勝子(宮崎)

発行月日 平成23年4月10日